

●むし蕪 五つばかりの蕪をさい形に切り、バター二斤ほどと、メリケン粉を少し加へ、鍋に入れてむすなり、胡椒の粉をふりかけて食す

●葱の富士あへ ねぎの白根ばかりを一寸程にきりてゆで、白胡椒をすり白味噌に酢を加へ白味噌を入れ、すりませてあへるなり。

富士ちゃんの記事

(明治三十四年十一月生)

會員 某 女

明治三十五年八月十七日 親類の家に連れ行きたるに、其處の子供の玩具を取らんとし、又一方は貸すまじとして、互に争ひ、終には共に泣き出した

八月十八日 今日叔父ちゃんが、學校への出掛け

に、「サヨナラアイ」といひて、口を大きく開きたるが、この後は誰にても、「サヨナラ」といへば、富士ちゃん必す「サヨナラアン」といひて、一杯に口をあけ、目を見張る、其様實にお笑し、

八月十九日 父ちゃんを「チエ、チエ、チャン」といひ始む。

八月二十日 風を引きて、氣持悪しき爲めか、ねむそうにして眠らず、機嫌わるく困りたれば、母ちゃんが背負うて、桃太郎や、浦島などの歌をうたひながら、椽を歩きまはりたるに、いつの間にか眠りたり。

八月二十一日 箆筒の銀の「チン」と音するを喜び自ら銀を上げ下げして、音する毎に「チン」といひて、餘念なく遊びたり。

八月二十二日 此頃は非常の悪戯にて、火鉢の側

に來れば、灰をかきまはし、障子、唐紙などの所に行きては、之を破り、少しも油断ならず。今日もあまり悪戯をして、終に、したたか額を打つた、富士ちゃんは「オデコ」だから、何時でも、一番先きに額を打つて、始終瘤の出來居るには、皆笑はずに居られない。

八月二十五日 今日にて丁度生後三百日なり。

八月三十一日 何時の間にか、食指にて、空や表の方を、指すことを覺え、何か言ひたそうになせり。

九月二日 親戚の人より、江島土産なりとて、貝に笛のつきたるを貰ひたるに、其音調子はづれに高き故か、是を聞くとすぐ泣き出した。

九月三日 母ちゃんが、女子の友を讀み居たるに、其中にかもしろき子守歌ありたれば、是を歌ひ聞

かせたるに、心持よさそうに眠りたり。  
九月五日 買物を連れ行きたるに、途中より雨降り出し、顔にかへりたれば、小踊りして喜べり。  
九月八日 新聞紙を破ぶることが大好きで、これさへなし居れば、暫らくは静に遊ぶ。

